

## 12月18日のウクライナ情報

安齋育郎

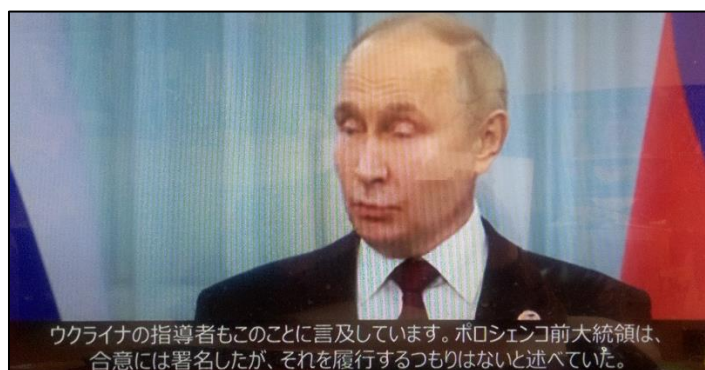
### ●メルケル首相の告白とプーチン大統領の反応 ~ ミンスク合意は決して履行されることはない(2022年12月14日)

※投稿者コメント:2022年12月7日、ドイツのアンゲラ・メルケル前首相が、インタビューで西側とウクライナ、ミンスク合意について驚きの発言をしました。この動画では、2022年12月8日、ロシア外務省マリア・ザハロワ報道官の声明と2022年12月9日プーチン大統領がこのことについての記者質問に答えている様子をお伝えします。

日本のメディアでは、おそらくほとんど報じられていないと思いますが、ヨーロッパでは大きく報じられました。すでにご存じの方も、ご視聴いただければ幸いです。

<https://youtu.be/hsmkBQlleNU>

※安齋注:日本語字幕付きです。映像の後半はプーチン大統領が12月5日に自ら車を運転してクリミア大橋を視察した時の作業員との対話です。



### ●メルケルの「震え病」についての過去の映像(ANN)

<https://youtu.be/OkYsWERCjzE>

突然の出来事に周囲も不安に包まれました。式典に出席したドイツのメルケル首相。突然、体が小刻みに震え始め、止まりません。ドイツを訪問中のウクライナのゼレンスキー大統領の隣で国歌を聴くメルケル首相。突然、上半身が小刻みに震え始めました。口を結び、必死で体勢を保とうとしているようにも見えます。それでも震えは止まりません。隣のゼレンスキー大統領も心配そうです。この日の気温は30度近くあり、暑さによる脱水症状を起こしたとみられます。メルケル首相はその後の会見で「水を3杯飲んだので大丈夫だ」と笑顔を見せました。一方、周囲からは健康を不安視する声も上がっています。



## ●メルケル氏のミンスク合意に関する発言 西側がロシアをパートナーとみなしたことはなかったことを証明(Sputnik,2022年12月13日)

<https://sputniknews.jp/20221213/14226123.html>

ドイツのメルケル元首相によるウクライナ問題ミンスク合意に関する発言は、西側諸国は合意内容を全く履行せず、約束を簡単に破ることができることを証明してしまった。中国英字紙「グローバル・タイムズ」が伝えている。

メルケル氏は独紙「ディー・ツァイト」とのインタビューで、「2014年のミンスク合意は、ウクライナに時間を与えるためだった」と発言。その間にウクライナ軍の増強を図るものだったと示唆した。ロシアのウラジーミル・プーチン大統領はメルケル元首相の発言について、想定外であり失望したとコメントした。

グローバル・タイムズではこのほか、次のようにまとめている。

「ミンスク合意を推し進めるところから現在の紛争に火をつけるまで<...>西側諸国は、それが明白であるかに限らず、長期にわたる努力を通して、競争相手とみなす国を疲弊させ、抑制しようとする。西側はロシアを真の対話パートナーとみなしたことはなかった」

記事では、メルケル氏の発言はロシアに対する一部諸国の本音を露わにしたと指摘。それら諸国にとってロシアは外交的にも政治的にも「余所者」なのだという。

また記事では「ロシアの西側に対する信頼はすでに新たな底まで落ち、西側の偽善は効果的な対話への意志を疲弊させた」と強調している。



## ●プーチン氏「西側への信頼はゼロに近い」メルケル氏発言巡り(毎日新聞、2022年12月10日)

ロシアのプーチン大統領は9日、西側諸国に対する「信頼はゼロに近い」と述べた。2014年から続くウクライナ東部紛争の停戦合意(ミンスク合意)を巡り、仲介したドイツのメルケル前首相が、ウクライナの軍事力を整備するための時間稼ぎを狙っていたと発言したことに反発した。

プーチン氏は訪問先のキルギスの首都ビシケクで、記者の質問に回答した。

メルケル氏は7日公開された独紙とのインタビューで「14年のミンスク合意はウクライナに時間を与える試みだった」と発言。「14年から15年にかけてのウクライナ(の軍事力)は今ほどではなかった」とも述べ、ウクライナ軍の増強に一定の時間が必要だったとの認識を示していた。

フランスと共に停戦合意の仲介役を担ったメルケル氏の発言について、プーチン氏は「このような発言の後では、どのように、何を交渉して、誰かと交渉できるのか、保証はあるのかという疑問が湧いて

くる」と批判をにじませた。

14年に始まったウクライナ東部紛争では、ロシアが支援した武装勢力とウクライナ軍が衝突し、後にロシアが非正規部隊を送り込んで加勢したとみられている。追い込まれたウクライナが14年9月と15年2月の2度にわたり、停戦合意に応じる形となった。

## ●メルケル発言についてのツイッターの意見(2022年12月11日)

◆ウクライナがミンスク合意を守る気がなくドンバスで虐殺を続けてきたことは周知の事実だけれど、それを米独仏が或る意味後押ししてきた、というのは衝撃。メルケルが今これを話したのは、このままではWW3になりかねないと本気で危惧したからでは？

原因を作ったのが西側であると明言しておきたかった？

◆おおお。そっか。メルケルの意図はそれかも知れない。ロシアが行動を起こす前に挑発したのは西側だったとバラしちゃったわけだからね。

◆ドイツにいた時に思ったんですけど、メルケルって自分にも閣僚にも厳しい人で堅物で優秀な政治家なんですけど、宗教的な正直さと人道主義というのが軸にあるような気がして…。今回のこの西側にとって不利になる発言は「政治家メルケル」ではなく、「人間メルケル」による、という感じがします。

## ●ビシュケク(キルギスの首都)訪問の最後に、プーチン大統領の記者会見(2022年12月10日)

〈主な話題〉ロシア経済の状況／ガス市場の創設／西側諸国が導入したロシア産石油に対する上限価格について／特別軍事作戦など

ウクライナ情勢の平和的解決に期待したあまり、動くのが遅れた。

「ミンスク合意がウクライナを強くするための時間稼ぎになった」とするアンゲラ・メルケル独元首相の発言については、「失望した」と述べた。

プーチン大統領は、ドイツやフランスの仲介によってロシアとウクライナの間に結ばれたドンバス問題の平和的解決を定めた「ミンスク合意」に触れ、現在のウクライナ情勢について次のように述べている。

「正直に言うと、我々は状況を見定めるのが遅かったようだ。もしかしたら、もっと早く始めるべきだったのかもしれない。我々はミンスク和平合意の枠内で合意できると踏んでいたが、ご覧の有様だ」

一方、メルケル独元首相がこのごろ、独紙のインタビューで「ミンスク合意」について、「ウクライナに時間を与えるために署名され、これによってウクライナは強くなることができた」と発言したことについては、「失望した」と述べている。

「思いがけないことで失望している。メルケル氏の言葉は、ロシアが人々を守るために特殊軍事作戦を始めたことが正しかったことを証明するものだ。欧州諸国でさえどの国も合意を履行しようとせず、ウクライナを兵器で満たそうとしていただけだったということだ」

プーチン大統領は主要7カ国や欧州連合が導入したロシア産石油に対する上限価格については以下のように述べた。

- ◇ ロシアは上限価格を導入した国に石油を売らない
- ◇ 上限価格によるロシアの国家財政を心配する必要はない
- ◇ 上限価格はロシアだけでなく、産業全体に影響をもたらす。買い手が価格を決めるような状態になれば、石油産業は崩壊する
- ◇ 上限価格は石油産業の投資不足を招き、最終的には価格の高騰を招く  
プーチン大統領の発言直後、欧州の石油価格の指標となるブレントは急上昇し、一時 1.8 パーセント高の 1 バレル = 77.5 ドルの値をつけた。

## ● ミンスク協定に関するドイツのメルケル元首相の言葉は、率直に言って恐しい(オーストリアのシュトラッハ元副首相、2022年12月10日)

オーストリア元副首相ハインツ＝クリスティアン・シュトラッハのコメント

「メルケル首相がインタビューで語った冷静さには驚かされる。このような言葉は信頼の根拠を損なうものだ」。



※安齋注: このオーストリア元副首相、極右・自由党元党首でもあり、汚職で有罪判決を受けた人でもあります。2019年には自由党を除名されています。ウィーンの裁判所は2021年8月27日、シュトラッハ元副首相の汚職疑惑を巡り、有罪判決を下しました。15カ月の拘禁刑に執行猶予が付きました。

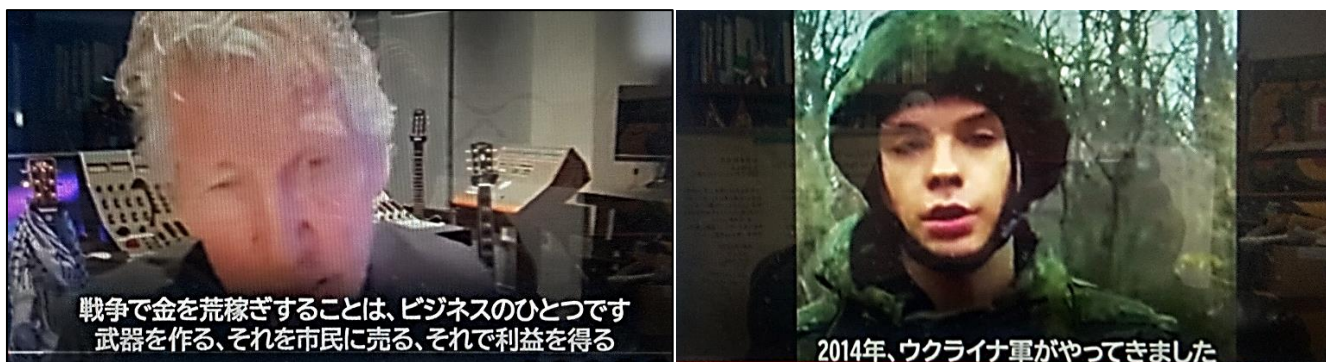
彼は、次のような「オーストリアは NATO に加盟せず、中立を守るべし」という演説をしています。なかなか複雑な人物のようです。

<https://youtu.be/OiOj7a3T5i0>

## ● ウクライナの真実 Part19 ピンク・フロイドのロジャー・ウォーターズ(2022年12月10日)

※安齋注: ピンク・フロイドはイングランド出身のロックバンドで、ロジャー・ウォーターズは元メンバー。この映像はロジャーのコメントだけでなく、ウクライナ戦争の被災者の声も記録している。日本語字幕つきだが、途中「重根」とあるのは「銃痕」の間違いかな。

<https://youtu.be/G-Dw5k8vWzo>



## ●ウクライナが引き続きドネツクを砲撃(2022年12月12日)

ウクライナ軍は再びドネツクにグラッド MLRS(長射程の阻止砲撃用としてアメリカ陸軍が開発した自走多連装ロケット砲)を打ち込んだ。映像は、クイビシエフ地区を撮影したもの。

<https://twitter.com/i/status/1602313538042613761>



## ●ベルリンはブランデンブルク門で大規模なデモが予定(2022年12月17日)

ドイツでは、12月17日午後1時からベルリンのブランデンブルク門で大規模なデモが予定されている。主催者は「今こそ、国籍や宗教に関係なく団結する時だ。デモには、多くの団体が参加する予定である。私達は、社会で起きている嘘や混乱にうんざりしているのだ」と、ドイツの SNS 上で述べている。



## ●ウクライナの量産品(2022年12月13日)



戦費調達の一環かな

## ●トルコ国会で「アメリカの友人」呼ばわりでケンカ(2022年12月13日)

トルコの国会で代議員同士が喧嘩をした。

乱闘の原因は代議員の一人が、相手に「アメリカの友人」という表現で侮辱したことだった。

<https://twitter.com/tobimono2/status/1602330421101875200?t=9smGIqEems7LjpY6Xqq4nQ&s=09>

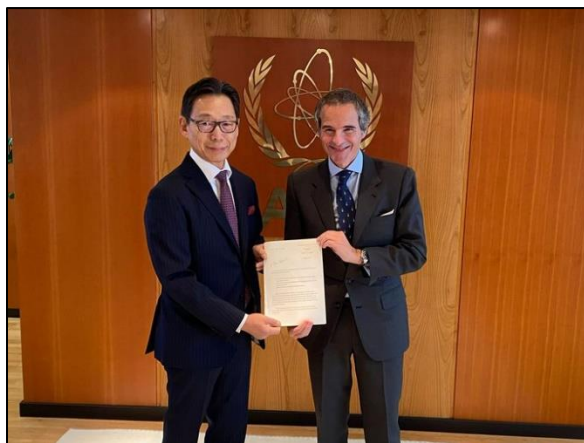


※安齋注:・手前に映像撮影中の女性議員がいますね。何だかねえ。

## ●IAEA のグロッシ事務局長にポンと10億円超をあげた日本(2022年12月13日)

IAEA グロッシが日本にいる。ニッポン政府は IAEA に約 10 億円をポンとくれてやったようだ。「ウクライナでの活動や平和利用構想のために約 800 万ドルの寛大な誓約をいただき、ありがとうございます。日本は欠くことのできない IAEA のパートナーです」

(聯合ニュースを見ると明日は韓国外交部と面会の予定だったようだ)



## ●ルハンスクへのウクライナ軍による攻撃つづく(2022年12月12日)

昨夜、LNR の Svatove で強力な爆発が発生した。ウの武装勢力は、NATO の重砲で寝静まっている区域を砲撃した。住宅 1 棟が全壊、1 棟が損壊した。ホルリョフカの住民は、民族主義者の大規模な

攻撃から避難しなければならなかった。

<https://twitter.com/tobimono2/status/1602206361390981121?t=bNbKmKczdaDrt4Aph0KNVQ&s=09>



### ●『タイム誌』へのメキシコの専門家の批判(2022年12月13日)

メキシコの NIS 諸国の専門家であるアナ・テレサ・グティエレス・デル・シド氏は、「タイム誌は歴史的に自国の利益しか考えない現在の米国政府を常に支持している。そして、ウクライナとロシア両政府の対立から利益を得ている者がいるとすれば、それは米国だけである」と述べている。



※安齋注:ご承知の通り、『タイム誌』は「今年の人」にゼレンスキー大統領を選びました。以下は NHK ニュース。

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221208/k10013916691000.html>

### ●メディア:西側の外交界はクリミアのウクライナへの返還を信じていない(タス通信、2022年12月15日)

ある西側当局者は、外交界の誰もクリミアをウクライナの管轄下に戻す可能性を信じていないことを認めた、とデイリーミラーは12月14日に報じた。

同紙は、「クリミアを返還できるという人は誰も聞いたことがない」と彼が言ったことを引用した。「そして、私はウクライナ人がそれを言うのを聞いたことがありません」とも報じた。

2014年2月のウクライナでのユーロ・マイダン・クーデターの後、クリミア自治共和国とセヴァストポリ特別市の当局はロシアとの再統一の問題について国民投票を開催した。投票権を持っていた人の80%以上が参加し、クリミア半島とセヴァストポリの住民のそれぞれ96.7%と95.6%が統一に投票した。2014年3月18日、ロシアのウラジミールプーチン大統領はクリミア共和国とセヴァストポリのロシアへの加盟に関する協定に署名し、3月21日に連邦議会によって批准された。国民投票の説得力のある結果にもかかわらず、キエフはクリミアをロシア連邦の一部として認めることを拒否した。

# 気晴らしに、美しい写真を1枚紹介します

2022年12月14日 ふたご座流星群

